

- 手取川、梯川等大規模氾濫に関する減災対策協議会では、「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画の取組の一環でとりまとめた「地域の取組方針」について、各構成機関の取組状況を情報共有しました。
- 緊急行動計画にて各市町で取組むこととされている、洪水ハザードマップの作成や要配慮者利用施設による避難確保計画の作成支援にあたっての課題について各機関からの課題を共有しました。
- 平成30年7月豪雨における、金沢河川国道事務所と石川県の出水対応を報告し、今後の出水時の対応における課題について、各機関からの課題を共有しました。

日時：平成30年7月23日（月）9：30～11：30
場所：川北町文化センター2階大ホール
参加機関：＜構成機関＞

金沢市、小松市、白山市、能美市、野々市市、川北町、石川県、金沢地方気象台、金沢河川国道事務所
＜オブザーバー＞
加賀市、石川県農林水産部農業基盤課、北陸電力(株)、電源開発(株)、西日本旅客鉄道(株)、中日本高速道路(株)、陸上自衛隊、金沢大学大学院自然科学研究科都市・河川防災講座



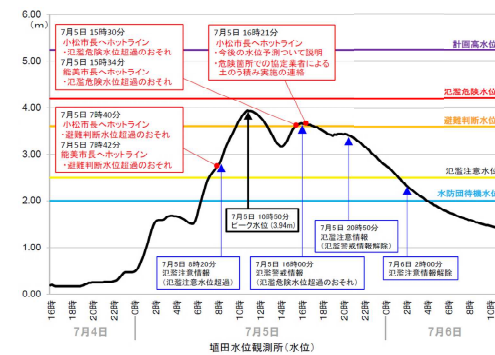
＜開催状況＞



＜協議会で議論している様子＞

ホットラインによる情報共有実施状況

- ・平成30年7月豪雨では、梯川では避難判断水位を超過する出水を記録
- ・減災対策協議会において、事前にホットラインの連絡体制を構築し、梯川流域の首長へ洪水に関する状況を逐次提供
- ・小松市では、自主避難所を18箇所開設し、高齢者等へ早めの自主避難を呼びかけ

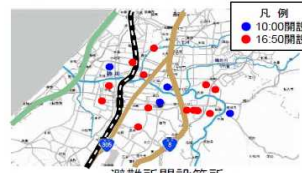


自治体の避難所開設状況

○小松市
梯川的全流域エリアを対象に、18か所に避難所を開設

【7/5 10:00 開設】
小松市民センター、第一コミセン、こまつドーム、能美小学校、中海小学校

【7/5 16:50 開設】
板津中学校、小松明峰高校、国府小学校、国府中学校、小松高校、小松市立高校、小松工業高校、東陵小学校、小松商業高校、中海中学校、声城中学校、荒屋小学校、苗代小学校



住民避難の課題

- ・洪水ハザードマップを本格的に周知するにあたって、同時に避難方法なども提示する必要性を感じる。市域が膨大であれば、遠方への避難は自動車の使用が見込まれ、二次災害なども懸念。
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成にあたり、要配慮者は自力で避難できない方がほとんどであるため、施設側から誰が行うのか、こういった形で行うのか等、避難の在り方を問われる事が多い。

平成30年7月豪雨による出水のふりかえり

- ・平成30年7月豪雨の際に、氾濫が発生した場合の浸水区域が小学校区単位でテレビ報道されたが、その小学校が開設避難所と誤解を与える可能性があるため、情報伝達の改善が必要。
- ・市によっては、浸水想定区域内に市の指定避難所があり、災害の種類や規模によっては使用できない可能性があることを、住民に対して確実に周知が必要。